

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372101465		
法人名	有限会社 真寿会		
事業所名	グループホーム楽楽苑（富士）		
所在地	岡崎市真伝2丁目1番地4		
自己評価作成日	平成28年 2月14日	評価結果市町村受理日	平成28年 5月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2372101465-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F
訪問調査日	平成28年 2月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者ごとの状態に合わせたケアに取り組んでおり、利用者さんがその人らしく暮らせるように支援しています。季節ごとの掲示板を掲示し、歌を唄ったり地域へと散歩や買い物などに出掛けたりしながらのんびりと生活ができるように心掛けております。盆踊りや地域への催し物(芋掘り体験などの様々な体験教室や踊りの観賞など)小学生の慰問(職場体験や慰問、敬老会や運動会への参加など)地域と利用者さんとの関わりを大切にしております。毎月その季節ごとの行事や家族参加行事を行い、利用者さんご家族の交流の機会を作ったり利用者さんに季節感を感じてもらえるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念『地域と共に、ゆったり、ゆったり、その人らしく』を実践に活かしたケアに取り組んでいる。一人ひとりのペース、その人の生活歴、何がやれるか、何をやりたいのか、を把握し、出来る事はやってもらい、出来ない事は手伝う支援を実践している。
職員の提案で始まった『昼食後のミニカンファレンス』の取り組みも素晴らしい。毎日リーダーが中心となり、午前中の出来事を話し合い、課題があれば管理者に報告し素早い対応をしている。
毎月計画的にパート職員も含めた全職員を対象とした研修を行い、意識改革や介護レベルの向上に努めている。この研修について、管理者が運営推進会議で『今後も引き続きスタッフの研修を実施して行き、家族が安心される様努めて行く』と宣言している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に見えるところへ掲げいつでも目に入るようにしている。	苑の理念『地域と共に、ゆっくり、ゆったり、その人らしく』を謳い、玄関に掲示し、パンフレットや家族への便りの表題に記して職員・家族・訪問者に周知している。年度目標『……』に取り組み中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩中の挨拶やスタッフの通勤時間等、職員側からの挨拶も心がけている。また継続して地域の行事に参加したり市の催しに参加したりしている。さらに苑主催の認知症の研修会に参加を呼びかけている。	散歩・通勤の際は職員側からの挨拶を心がけている。小学校の運動会・町内の盆踊りでは招待席も設けられる。楽楽祭り・納涼祭・AEDの講習会・小学校の体験学習等、地域の方々の来訪がある。	認知症ケアや関わり等について、地域の方々に啓発する機会や相談を実施する等、地域に向けた情報発信を行い、認知症の地域拠点としての役割りを担う事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩などの外出時にお話をしたり地域の総代さんを通じて高齢者や認知症高齢者の家族の悩みなどを聞いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災についての取り組みや地域の状況の把握。苑の状況を報告すると同時に地域の防災会議への参加や地域の連絡協議会に参加し苑の説明をし何かできる事はないか模索している。	出席者・開催回数共に基準をクリアし、出席者からは積極的な意見の出る双方向の会議である。ホームの行事予定・行事報告・避難訓練等の報告について出席者との意見交換がなされている。	知見者の参加を促し、会議内容の充実を図り、会議で出された意見をホームの課題として受け止め、継続して検討し、結論を出す会議運営を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問がある時には連絡したり直接窓口へ行くようにしている。	運営推進会議に包括支援センター職員の出席、介護相談員の受け入れによりホームの近況は行政担当者に良く理解されている。市のグループホーム小部会終了後には必ず役所窓口顔に出している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行事等に関するものは張り出して常に見えるところに掲示している。また、年に1度、スタッフに対して身体拘束をしないケアの研修を開いたり、外部研修がある時には積極的に参加している。	管理者・職員共に身体拘束のないケアの重要性を認識し、毎年『身体拘束をしないケア』の研修会を開いている。居間に『利用者さんに対しての否定語』を掲示し、スピーチロックに配慮している。玄関の鍵は職員の見守りの手薄な時に限って施錠する事がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	主な虐待等に関してはスタッフルーム内に掲示し、年に1度スタッフに対しての研修を開いたり、外部研修がある時には積極的に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、知識を得るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話し合いの機会を多く作り、わからない事なども積極的に聞くようにし、お互いが理解、納得をした上で行うようにしている。また、利用者さんの今までの生活の状況を利用者様、ご家族様に、時間の許す限り細かく聞くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会の実施や運営推進会議の中にも盛り込んだりしている。また、日々の生活の中や相談員の来苑時などにも設けている。	家族の来訪は頻繁で、日常の来訪、家族会(5月・10月)、運営推進会議等、意見を聴く機会は多くある。毎月の家族宛の便りで『生活の様子』、『医療面』、『お小遣い』等、利用者の近況を詳細に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やカンファレンスの中で話し合ったり、日々の業務の合間などで行っている。	毎月の全体会議、毎日のユニット毎のミニカンファレンスで管理者は職員の要望を把握している。市政便りの案内を見て職員が直接連絡を取り『婦人会の劇』、『小学生のチアガール』、『俳句会』の慰問が実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人ひとりで評価しそれをふまえて賞与を出したり昇給したりしている。また、出来る限り職員間で苑を作っていってもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度法人内の管理者会議を行ったり、直接現場を確認したりし職場内で研修や勉強会を行ったり法人内全ての事業所合同で勉強会をしたりしている。また、外部研修なども参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市、他市共、相互訪問や合同研修等を行いながら情報交換や意見交流を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員1人ひとりが気を付けて見守り、動き回っている中でも短時間でも足をとめ、聞く時間を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時から時間を確保しながら場の雰囲気を作りながら話を聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望があれば色々なサービスなどを紹介しながら行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食は一緒に摂るようにイベントなどは職員も一緒に楽しめる事を計画目標にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは本人の気持ちを考えるように努め、家族と共に話しをする機会を依頼したり行事に共に参加していただいたりと絆を深めてもらえるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の出入り、喫茶店(なじみ)への外出等を行い関係の継続を図っている。また、デイサービスを利用されている方もおり交流をもてるような環境作りを行っている。	お花・書道の教え子、婦人会の仲間、勤務先の同僚等の来訪がある。スーパーのレジ係だった利用者は買い物へ、常連客だった利用者は馴染みの喫茶店へと、馴染みの人や場所との関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃からの状況や精神状態をふまえながら支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や急変での対応がほとんどであり、その際にはお見舞いに足を運んだり連絡したりしながら状況を聞きながら相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の思いや家族に家での状況を聞きながら対応している。また、話しやすい場を作るように雰囲気作りを行ったり信頼関係を構築できるよう努めている。	余り喋らない利用者には『出来るかな?』と、手探りで出来る事を話していく。こちらから積極的に話して行くと表情が変わり、頷いてくれる。苦労して掴んだ『思い・希望』は大切に職員間で共有している。	その人らしさを支援する『個別ケア』は、本人の思いや意向を把握し、可能な物を日々の暮らしの中に取り入れる取り組みと言える。介護計画への連動の仕組み作りを望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の調査の際の観察や入所時の家族による生活歴の記入をもとにカルテ等に記載し把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のスタッフ同士のコミュニケーションやカンファレンスやミーティングや全体会議などを通じ定期的に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当が主となりカンファレンスを開いて意見交換などを行っている。	利用者・家族の思いが解りやすく記載され、日常生活に充分活かされている。家族アンケートで『介護計画の説明』の項目が高い評価(一人を除いて全員が満足)である事からも理解出来る。	利用者の重度化が進むと身体介護中心の介護計画になりがちである。一人でも多くの利用者の介護計画が、意向に沿った個別性のあるものになる事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスやミーティング、全体会議などや日頃の業務の合間にユニット間で話し合い現状を把握しながら見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームで可能な範囲で支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物などに参加したりボランティアなど利用者の必要に応じ協力支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週水曜日には往診があり緊急時には電話連絡により受診又は往診をしてもらっている。	利用者・家族の希望が優先されている中で、利用者全員が協力医をかかりつけ医として毎月往診を受けている。毎週水曜日が往診日であるが、緊急時には電話連絡により受診したり往診を受けたりしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日の往診時に一緒に来て相談等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、家族とこまめに連絡をとったり面会に行き直接確認したりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明させて頂いている。また、重度化の際は苑、家族、かかりつけ医を含めて今後の支援方法について話し合いを行っている。	利用開始時に指針『医療行為がない限り家族の要望があれば看ていく』を説明している。その時が来たら、苑・家族・協力医が話し合って最善の方法を取り、今年も看取りを3例経験した。看取りを経験する中で、職員も成長して行く事を期待されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員1人ひとりにマニュアルを渡している。また、スタッフルームにマニュアルを保管している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の動きに関してはスタッフルーム内に掲示している。地域とは連絡会や町内の防災会議に参加し夜間の避難の協力を依頼したり民生委員・近所の交番などにも依頼をしている。	年2回、併設の施設と合同で消防署員立ち合いの避難訓練を実施している。内容は通報訓練・避難誘導訓練・AED訓練等を行っている。管理者は地域の方々の協力を得て、夜間想定訓練も模索している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護については定期的に全体ミーティング時に話したり年に1度研修会を開いたり外部研修会に参加してもらえるように促している。	利用者に対して人生の先輩として尊敬の意を忘れず、丁寧な言葉かけを心がけ、特に馴れ合いからの言葉遣いに気をつけている。入浴・排泄介助の際には羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢が沢山あるとわからなくなってしまう方もみえる為、その時々で場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日によって変化する為、スタッフからの声掛けや利用者さんの行動を観察したり日常の様子を把握したりしながらその人一人ひとりに合った生活スタイルを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事などでお化粧をしたり、いくつかの服のコーディネートをし利用者さんに選んでもらうようにしている。また、ボランティアで散髪なども実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や外食、苑外の食事などを行い雰囲気を変えながら対応している。また、プランターで野菜を育てたりし野菜の世話を利用者さんにしてもらったりしている。	利用者と共に食事を摂る職員、さりげなく介助する職員と、賑やかな食事風景である。利用者は力量・希望に合わせて食材切り・皮むき・下膳・食器拭き等、出来ることを手伝い、楽しみ・張り合い・自信を引き出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握する為、独自のボードを用いてチェックしている。また、その方の好み等を取り入れ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の日課として行っている。また、1人ひとりの状態に合わせて歯磨き粉、うがい薬、口腔内清拭など分けて支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などの独自のボードを活用し排泄・排便パターンをチェックしている。	排泄チェック表を活用して利用者個々の排泄パターンを把握し、声掛け誘導でトイレで排泄出来る様に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段より入浴をこまめに実施したり排泄状態の把握や下剤による調節、アイスやヨーグルトなどの摂取や毎日の体操や運動を行い排便を促す支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ひとりの利用者さんのその日の体調や状態や気持ちを確認して入浴の支援を行っている。	利用者の希望に合わせ、2日に一度の入浴支援を行っている。入浴を拒否する利用者には無理強いせず、入浴時間・日にち・職員を変えて同性介助で対処する等、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の状態などを考え、日中動いてもらったり眠気がみられるまで一緒に過ごしたり、夜間の不安を解消したりして安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は各カルテにはさんでいる。また翌日の服薬をセットする場所に服薬名、数の一覧表を掲示し確認しながらチェックし日中と夜間のダブルチェックを行っている。服薬ができれば独自のチェックシートにチェックをし確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や裁縫、歌、編み物や掃除、園芸などその人に合ったものを日常的に提供している。また、定期的にカンファレンスを開きその人一人ひとりの好みをスタッフ全員で考えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩も含め、その日の利用者さんの状態や天気等見ながら支援している。	日常的に職員と近くの公園、食材買い物、車椅子での散歩、庭でのおやつを楽しんでいる。季節の花を求め、天満宮の梅、伊賀川の桜、陣屋のばら、紅葉ドライブ、家族会を兼ねて家族参加のデンパークへのバス旅行等が実践されている。	家族アンケートで最も厳しい評価を受けた項目である。利用者の日常生活（特に外気浴を含めた外出）を家族に伝える工夫を望みたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時に物を選んでもらったり実際に支払いをしたり、チラシや広告などを話しながら見たりなどその人その人に合った支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせていつでもできるようにしている。その際、職員から前もって家族に連絡するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや居間に花を飾ったり、音楽を流す時間やテレビを見る時間や調理風景や出来立ての食事の臭いをかいで頂いたりなど家庭的な雰囲気を作るように支援している。	日当たりの良い場所に共用空間がある。壁には大きな日めくりが架かっており、生活感がうかがえる。廊下にはひな祭りの作品や写真、小学生からの感謝状等が飾られており、掲示物を見ながら利用者が嬉しそうに話している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中にいくつかソファを置いたり椅子をいくつか並べ工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、話しをし極力本人の使用していたものなどを持ち込んで頂けるように依頼している。	居室は畳使い、床張りの2形式がある。炬燵を持ち込みテレビを楽しむ居室、使い慣れた筆筒を持ち込む居室、ドレスアップした利用者の自慢の写真が飾られた居室等があり、どの居室も整理整頓が行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどには名前を表示している。また、廊下に手すりをつけたり口腔ケアの用具を洗面台に置いたりとその人が自発的に実施しやすいような環境作りに努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372101465		
法人名	有限会社 真寿会		
事業所名	グループホーム楽楽苑		
所在地	岡崎市真伝2丁目1番地4		
自己評価作成日	平成28年 2月14日	評価結果市町村受理日	平成28年 5月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2372101465-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 2月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者ごとの状態に合わせたケアに取り組んでおり、利用者さんがその人らしく暮らせるように支援しています。季節ごとの掲示板を掲示し、歌を唄ったり地域へと散歩や買い物などに掛けたりしながらのんびりと生活ができるように心掛けております。盆踊りや地域への催し物(芋掘り体験などの様々な体験教室や踊りの観賞など)小学生の慰問(職場体験や慰問、敬老会や運動会への参加など)地域と利用者さんとの関わりを大切にしております。毎月その季節ごとの行事や家族参加行事を行い、利用者さんご家族との交流の機会を作ったり利用者さんに季節感を感じてもらえるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に見えるところへ掲げいつでも目に入るようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩中の挨拶やスタッフの通勤時間等、職員側からの挨拶も心がけている。また継続して地域の行事に参加したり市の催しに参加したりしている。さらに苑主催の認知症の研修会に参加を呼びかけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩などの外出時にお話をしたり地域の総代さんを通じて高齢者や認知症高齢者の家族の悩みなどを聞いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災についての取り組みや地域の状況の把握。苑の状況を報告すると同時に地域の防災会議への参加や地域の連絡協議会に参加し苑の説明をし何かできる事はないか模索している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問がある時には連絡したり直接窓口へ行くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行事等に関するものは張り出して常に見えるところに掲示している。また、年に1度、スタッフに対して身体拘束をしないケアの研修を開いたり、外部研修がある時には積極的に参加している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	主な虐待等に関してはスタッフルーム内に掲示し、年に1度スタッフに対しての研修を開いたり、外部研修がある時には積極的に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、知識を得るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話し合いの機会を多く作り、わからない事なども積極的に聞くようにし、お互いが理解、納得をした上で行うようにしている。また、利用者さんの今までの生活の状況を利用者様、ご家族様に、時間の許す限り細かく聞くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会の実施や運営推進会議の中にも盛り込んだりしている。また、日々の生活の中や相談員の来苑時などにも設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やカンファレンスの中で話し合ったり、日々の業務の合間などで行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人ひとりで評価しそれをふまえて賞与を出したり昇給したりしている。また、出来る限り職員間で苑を作っていってもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度法人内の管理者会議を行ったり、直接現場を確認したりし職場内で研修や勉強会を行ったり法人内全ての事業所合同で勉強会をしたりしている。また、外部研修なども参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市、他市共、相互訪問や合同研修等を行いながら情報交換や意見交流を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員1人ひとりが気を付けて見守り、動き回っている中でも短時間でも足をとめ、聞く時間を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時から時間を確保しながら場の雰囲気を作りながら話しを聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望があれば色々なサービスなどを紹介しながら行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食は一緒に摂るようにイベントなどは職員も一緒に楽しめる事を計画目標にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは本人の気持ちを考えるように努め、家族と共に話しをする機会を依頼したり行事に共に参加していただいたりと絆を深めてもらえるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の出入り、喫茶店(なじみ)への外出等を行い関係の継続を図っている。また、デイサービスを利用されている方もおり交流をもてるような環境作りを行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃からの状況や精神状態をふまえながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や急変での対応がほとんどであり、その際にはお見舞いに足を運んだり連絡したりしながら状況を聞きながら相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の思いや家族に家での状況を聞きながら対応している。また、話しやすい場を作るように雰囲気作りを行ったり信頼関係を構築できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の調査の際の観察や入所時の家族による生活歴の記入をもとにカルテ等に記載し把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のスタッフ同士のコミュニケーションやカンファレンスやミーティングや全体会議などを通じ定期的に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当が主となりカンファレンスを開いて意見交換などを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスやミーティング、全体会議などや日頃の業務の合間にユニット間で話し合い現状を把握しながら見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームで可能な範囲で支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物などに参加したりボランティアなど利用者の必要に応じ協力支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週水曜日には往診があり緊急時には電話連絡により受診又は往診をしてもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日の往診時に一緒に来て相談等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、家族とこまめに連絡をとったり面会に行き直接確認したりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明させて頂いている。また、重度化の際は苑、家族、かかりつけ医を含めて今後の支援方法について話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員1人ひとりにマニュアルを渡している。また、スタッフルームにマニュアルを保管している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の動きに関してはスタッフルーム内に掲示している。地域とは連絡会や町内の防災会議に参加し夜間の避難の協力を依頼したり民生委員・近所の交番などにも依頼をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護については定期的に全体ミーティング時に話したり年に1度研修会を開いたり外部研修会に参加してもらえるように促している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢が沢山あるとわからなくなってしまう方もみえる為、その時々で場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日によって変化する為、スタッフからの声掛けや利用者さんの行動を観察したり日常の様子を把握したりしながらその人一人ひとりに合った生活スタイルを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事などでお化粧をしたり、いくつかの服のコーディネートをし利用者さんに選んでもらうようにしている。また、ボランティアで散髪なども実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や外食、苑外の食事などを行い雰囲気を変えながら対応している。また、プランターで野菜を育てたりし野菜の世話を利用者さんにしてもらったりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握する為、独自のボードを用いてチェックしている。また、その方の好み等を取り入れ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の日課として行っている。また、1人ひとりの状態に合わせて歯磨き粉、うがい薬、口腔内清拭など分けて支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などの独自のボードを活用し排泄・排便パターンをチェックしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段より入浴をこまめに実施したり排泄状態の把握や下剤による調節、アイスやヨーグルトなどの摂取や毎日の体操や運動を行い排便を促す支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ひとりの利用者さんのその日の体調や状態や気持ちを確認して入浴の支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の状態などを考え、日中動いてもらったり眠気がみられるまで一緒に過ごしたり、夜間の不安を解消したりして安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は各カルテにはさんでいる。また翌日の服薬をセットする場所に服薬名、数の一覧表を掲示し確認しながらチェックし日中と夜間のダブルチェックを行っている。服薬ができれば独自のチェックシートにチェックをし確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や裁縫、歌、編み物や掃除、園芸などその人に合ったものを日常的に提供している。また、定期的にカンファレンスを開きその人一人ひとりの好みをスタッフ全員で考えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩も含め、その日の利用者さんの状態や天気等見ながら支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時に物を選んでもらったり実際に支払いをしたり、チラシや広告などを話しながら見たりなどその人その人に合った支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせていつでもできるようにしている。その際、職員から前もって家族に連絡するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや居間に花を飾ったり、音楽を流す時間やテレビを見る時間や調理風景や出来立ての食事の臭いをかいで頂いたりなど家庭的な雰囲気を作るように支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中にいくつかソファを置いたり椅子をいくつか並べ工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、話しをし極力本人の使用していたものなどを持ち込んで頂けるように依頼している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどには名前を表示している。また、廊下に手すりをつけたり口腔ケアの用具を洗面台に置いたりとその人が自発的に実施しやすいような環境作りに努めている。		